作成日:2021年11 月 3 日
作成者:遠藤　真弓

研修報告書:

所属会派	おかや未来研究室	委員氏名	遠藤　真弓
研修の名称	岡谷絹ブランドの推進		
日程	令和３年 11月 18 日（木）～ 月　日（ ）		
研修内容等	（株）西山産業及び、「織の資料館・白山工房」に保存されている貴重な資料について学ぶ。宮坂博文氏との関わりを調査する。		

【概要】

岡谷絹工房宮坂博文氏は、「ブランドとは素材の様々を駆使すること」、また、その根底には土地柄が大切であるとおっしゃっている。無形文化財の牛首紬、白山紬というブランドを学ぶことで、あらためて岡谷シルク（絹）を学びなおし、岡谷シルクのブランド推進のための施策を考える。また、宮坂氏の着物の裂帖について、詳細を調査する。

【視察前の考察】

岡谷市の議場は、宮坂博文氏作のタペストリーが議長席後ろに装飾されており異彩を放っている。宮坂博文氏は、岡谷市出身のテキスタイルデザイナーであり、昭和38年に日本人としてはじめて国際インテリアデザイン賞を受賞するなど、国内外で高い評価を受けている。

・絹の痕跡と文化性を追求してこの地を染や織、それもハンドクラフトのモノづくりの場として定着させたい。
・シルク岡谷を新たな絹の名産地にしていきたい。
・和を培った技術と感性の高いレベルを洋生活対応での生活の具のモノづくりにいかしていきたい。

上記の言葉は宮坂氏の言葉だが、今、官民協働で地域おこし協力隊の力を借り確実に実現に近づいている。地域おこし協力隊の方々の任務期限が近づくなか、課題は継続性と聞いている。

市として今後どのように、この事業を継続、発展させることができるのかを念頭にブランド推進のための施策を考えたい。また、宮坂氏は西山産業の顧問であったが、牛首紬や白山紬、白山工房とどのように関わっておられたのかを調査したい。

【内容】

ご対応いただいたのは（株）西山産業　執行役員　繊維部長　西山哲央氏。
宮坂氏は「着物以外のもの、売れる商品を作りなさい。着物は時代にあわない。時代にあうものを作りなさい」と話しておられたとのこと。

白山工房は、繰糸から製織までの全工程一貫作業である。決して稼げる事業ではないので、西山産業は他の事業をメインでおこなっている。

牛首紬とは、くず繭の中の玉繭を主として織られた紬である。玉繭とは、すべて雄雌がペアで入っている繭のこと。残念ながら染色は化学染料とのこと。座繰りは横向きで糸をひいていた。（写真あり。）
裂帖も8冊ほど保管がある。今でもデザインの参考にしているとのこと。（VTRあり）

【感想】

岡谷市が今後おこなっていかなければならない新しいシルク文化は、宮坂氏が携わり命を吹き込んだ岡谷絹工房を抜きには全く考えられないことをあらためて感じている。文化として岡谷に根付かせなければならない。そのためには、普段の生活と密接に関わるもの、または事柄でなければならないのではないかと考えている。